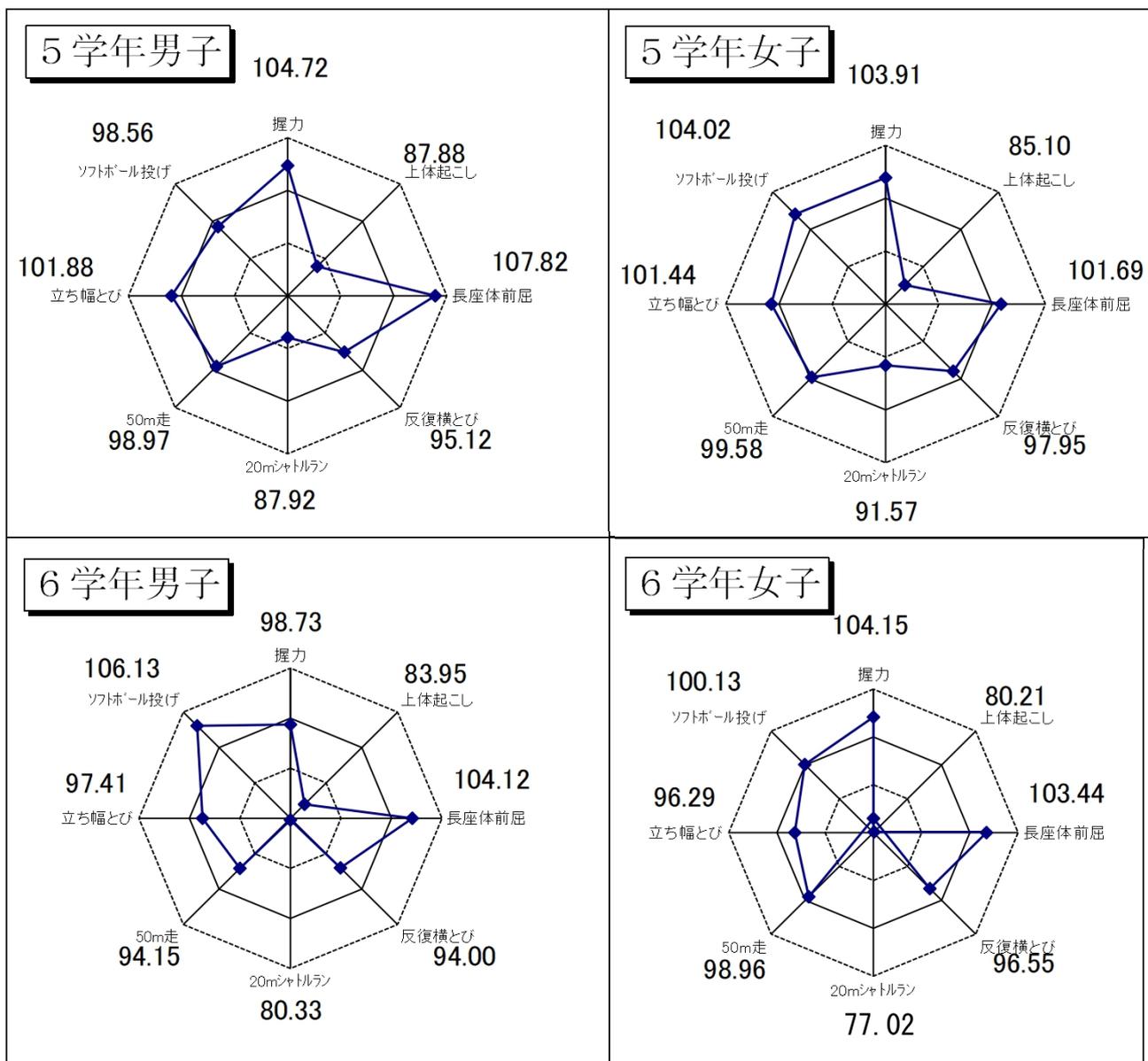


新体力テスト 郡平均と県平均との比較と考察

- ・グラフ中の数字は県のデータを100とした時の指数を表す。
- ・計算式は、(郡平均) ÷ (県平均) × 100である。(県平均は令和元年度)
- ・ただし、50m走については、 $200 - (郡平均) \div (県平均) \times 100$ で計算する。
- ・どの種目も指数が大きいほど能力が優れていることとなる。



【結果と考察】

・5学年男子は「長座体前屈」「立ち幅跳び」「握力」、5学年女子は「握力」「ソフトボール投げ」「立ち幅跳び」が県平均を上回り、他は平均かそれを下回る結果となった。6学年男子は「長座体前屈」「ソフトボール投げ」、6学年女子は「握力」「ソフトボール投げ」「長座体前屈」が県平均を上回り、他は平均かそれを下回る結果となった。特に「20mシャトルラン」は全体的に県平均より劣っている結果となった。

・郡平均の推移でみると、一昨年度に比べ32項目中(8種目×学年男女)11項目が上昇し、20項目が下降している。特に、「握力」は全体的に上昇しているが、「50m走」は下降傾向がみられた。

・新型コロナウイルスの影響で、児童の体力が著しく低下していることが明らかとなった。特に、持久力の向上が郡全体の課題となる。体力テストの結果をもとに、学校独自の運動を粘り強く続けていき、児童の体力向上に努めていく必要がある。さらに、体育科の単元指導計画を見直し、ねらいを明確にしていくことも必要である。